

## 第7回 高輪築堤調査・保存等検討委員会

# 開催記録（案）

### 1 開催概要

- 日時：令和3年4月19日（月）17：00～19：00
- 場所：JR東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・谷川 章雄氏（早稲田大学 人間科学学術院 教授）
委員	・老川 慶喜氏（立教大学 名誉教授） ・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 情報管理部 担当部長） ・古関 潤一氏（東京大学 社会基盤学専攻 教授）
オブザーバー	・文化庁 文化財 第二課 史跡部門 ・文化庁 文化財 第二課 埋蔵文化財部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・鉄道博物館 学芸部 ・東京都 建設局 道路建設部 道路橋梁課 ・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 品川・大規模開発部 ・東日本旅客鉄道株式会社 事業創造本部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	・東日本旅客鉄道株式会社 総合企画本部 品川・大規模開発部 ・東日本旅客鉄道株式会社 事業創造本部 他
サポート	・パシフィックコンサルタンツ(株)

■ 当日配布資料

- ・ 次第
- ・ 資料1：第6回委員会（4/14）の議事録確認
- ・ 資料2-1：4街区（4-1、4-2 街区）の築堤保存検討について
- ・ 資料2-2：補助線街路 332 号線周辺断面検討
- ・ 資料2-3：4-2 街区建物変更による現地保存可能性検討
- ・ 資料2-4：高輪築堤の調査・保存について（1～4街区）
- ・ 資料2-5：高輪築堤の調査・保存等に関する当社方針について
- ・ 資料3：懇談会の位置付け及び検討経過について
- ・ 資料4：高輪築堤の本調査（記録保存調査）の実施について
- ・ 資料5：現地調査の進捗報告
- ・ 資料6-1：「高輪築堤調査・保存等検討委員会」における検討経過と総括（案）
- ・ 資料6-2：「高輪築堤調査・保存等検討委員会」の議事内容公開までの流れ（案）

## 2 議事要旨

### (1) 第6回委員会(4/14)の議事録確認

- 修正の箇所がある場合は本会議の終了までに指摘いただき、ない場合は確定とする。(谷川委員長)  
⇒以下の点について修正して確定
  - オブザーバーの出欠修正(港区)
  - 前回までの全ての議事録において「谷川先生」から「谷川委員長」に修正

### (2) 保存方針について

#### 【4街区に関してのとりまとめ】

- 委員：信号機跡を含む可能な限り長い区間の現地保存を要望
- JR：現地保存が困難であることを説明。記録保存を提案。  
⇒3街区の第7橋台、及び築堤80mの現地保存を決断していただいたことについては、私どもは大変評価する。一方、4街区は現地保存を要望していたにも関わらず、記録保存となることに関しては、文化財的価値が損なわれることになり、誠に残念であり、検討委員会の委員としては承認できない。ただし、スケジュールの問題については、時間的制約を考慮するとやむなしという判断をせざるを得ない、ということを経最終的に検討委員会の結論としたい。(谷川委員長)  
⇒ただし、重要な遺構が出てきた場合は、現地保存もしくは移築保存を検討する、ということをお願いしたい。(谷川委員長)  
⇒開発の途中で遺跡が見つかりそれを保存するという問題が起きたとき、基本的には事業者の判断に委ねざるを得ないため事業者の責任が大きいと同時に、一方で事業者に多大な負担をかけている。文化財的な価値は経済的な価値には換算できないが、経済的な影響を受けながらも、かけがえのない文化財を保存することはある意味で重要な判断であり、そういった判断に至るかが問題である。(谷川委員長)  
⇒後世の方々にもこのような議論をしてよかったと言ってもらえるよう、調査、保存、我々としてはまちづくりも含めて、しっかりと進めていくことを決意表明したい。(JR)

- 
- コンベンションを高輪ゲートウェイ駅方面にスライドさせることが可能かについて、技術的に不可能ではないが、膨大な時間・費用がかかること、納得できた。また、法的に建設できない計画であるということは変わらないことも理解した。(古関委員)
  - 開発計画の大幅な見直し自体について、どう考えているのか。(谷川委員長)  
⇒文化財の価値は経済的なものからのみで語られるものではなく、様々な観点から理解すべきである。民間会社として投資をする以上、回収は考えているが、我々のまちづくりについても経済的な価値のみを目的としているのではなく、日本あるいは東京を元気にする、国際競争力を上げていく、あるいは環境に関してCO<sub>2</sub>削減等、他のまち

づくりにはないことに積極的に取り組んでいる。我々の開発では、両立を図る中で、是非よい形をつくっていききたい。(JR)

- 信号機について調査したところ、品川駅に対する遠方信号機の役割を果たしていたことが分かった。遠方信号機の基準は、イギリスでは900ヤード(約800m)であり、品川駅に対する位置が非常に重要である。移築になると思うが、なるべくオリジナルに近いところで、オリジナルの方向にあわせた場所に保存できるとよい。(小野田委員)
- 移築場所について、まちづくりの観点からは、最もインパクトのある場所、非常に注目が集まりやすい場所に、最もインパクトのある形で残されることになるのではないかと感じた。(UR)
- 移築を検討するにあたっては、山側の開業期の石垣の復元や、築堤の構造、断面が分かるような工夫を是非検討してほしい。その意味で、記録保存は詳細かつ慎重に行うべきである。(谷川委員長)
- 5・6街区に関しては、現状、開発計画が詰まっておらず白紙と聞いている。築堤の現地保存を考慮した開発計画を策定していただきたい。5・6街区の全体の開発の問題と、環状4号線、京急連立の問題は、切り離して考えられるかが大きな問題である。1～4街区と同様の状況にならないよう、1つ1つ積み上げていく議論をしあうことが必要である。(谷川委員長)  
⇒要望としては承るが、我々としては、これまでと同様、高輪築堤の広い意味での保存とまちづくりの両立に向けて取り組んでいくことをこの場で約束する。(JR)
- 3街区は大きな計画の変更があるが、2024年のまちびらきに間に合う方向で動いているのか？(谷川委員長)  
⇒1・2・4街区は2024年のまちびらきを前提としつつも、3街区は手続きで約1年かかることになり、3街区だけは間に合わない可能性がある。しかし、自助努力と関係行政のみなさまのご協力のもと、どうやって足並みを揃えていくかという方向で今後検討したい。(JR)
- 「この計画は2024年にまちびらきをしないと意味がない」ことに対する、説得力ある説明を一般の方々、学会関係者、マスコミ関係者にする必要がある。(谷川委員長・老川委員)  
⇒公共性・必要性などについて、今後しっかりと説明していききたい。(JR)

### (3) 懇談会の位置付け及び検討経過について

- 提示資料は東京都、港区、JRのメモから作成した議論の骨子であり、これを公開するということでよい。(谷川委員長)

### (4) 高輪築堤の本調査(記録保存調査)の実施について(調査区の考え方)

- 以下の点に気を付けること。(谷川委員長)
  - 基本的には北側からA、B、C、Dを振っていく

- 「調査区」に統一し、「2A区」、「2B区」などとする
- 枝番は振らない
- 発掘調査の範囲が提示資料でフィックスということであれば、これに基づいて杭打ちを行い、現地を確認いただければよい。(谷川委員長)  
⇒なるべくはやいタイミングで、スケジュールを調整させていただき、谷川委員長の立ち会いをお願いしたい。(JR)
- 1～4街区の調査を進めることについて理解いただいたということでよいか。(JR)  
⇒今後、調査の方法に関して検討する必要があるが、本日説明いただいた調査方針に準拠した形で調査を進めていただいてもよい。詳細については、私が立ち会う。(谷川委員長)
- 1つの遺構について、帯状に空白部分ができることはあり得ない。特に、4-1街区の調査をしていく中では、4-2街区との繋がりを念頭においた形での調査が必要である。(谷川委員長)  
⇒連続性を保った形で調整していく。(JR)
- 基本的には港区の作成するマニュアルに基づきながらも、街区ごとに違いがあるため、街区ごとに検討していくことが必要である。築堤の内部がよく分からず、最初から決め打ちで実施してしまうと失敗する可能性があるため、ある程度発掘を進めながら、その知見を次の調査区に活かしていく方法をとる必要がある。(谷川委員長)
- ナンバリングの仕方、遺構番号の付け方、遺物の引き上げ方や出土した際の注記方法など、細々とした問題を決定していく必要がある。(谷川委員長)
- 調査の進捗状況や調査の方法等に関して意見いただく機会や、様々な問題を議論する場とするイメージとして、本委員会を月1回程度で定例化できないか。(谷川委員長)  
⇒具体を相談させていただく。(JR)

#### (5) 現地調査の進捗報告及び環状4号線・京急線連立部の進め方

- 京急連続立体交差事業、環状4号線事業を5・6街区全体の整備計画から切り離す、合理的な説明が必要である。そのうえで、該当する部分の具体的な保護措置の方法を可及的速やかに委員会に諮れるよう、準備を進めていく。(東京都教育庁)

#### (6) 本委員会での議論内容とりまとめ及び公開

- 委員会としての見解として、本日のまとめとして言及した内容を中心に文書を用意する。配布方法は、要相談である。(谷川委員長)
- 第1回委員会において、谷川先生に委員長になっていただいた。以降は、「委員長」表記になる。(古関委員)
- 本日よりまとめという前提で、プレスリリースの準備を進めており、4/21(水)にプレスリリースを行うことを検討している。それまでの取り扱いを含めて、理解・協力をいただきたい。リリースの内容については、慎重かつ迅速に確認・意見をお願いしたい。

(JR)

## (7) 閉会

- 特に、第3街区の第7橋台部分および第2街区に関して、保存を図る決断をいただいたことに、文化庁として感謝する。保存を図る箇所に関しては、今後の整備や史跡指定に向け、国としても委員の先生方の想い、JRの想いを受け止め、対応していきたい。(文化庁(史跡))
- 日本の鉄道技術を知ることができる、非常に重要な遺跡である。遺構の解体の過程で、余すことなく情報を抽出できるような調査をお願いしたい。そのために、しっかりとした発掘調査ができるような工程を組み、重要な遺跡に対する責任が取れるところまで実施していただきたい。(文化庁(埋蔵文化財))
- 保存される部分について、国民の皆様公開できるよう、調査成果を加えながら、史跡指定、整備、維持を含め、体制づくりを検討することも必要である。(東京都)
- 今後の記録保存調査については、港区としてもJRと連携し、必要十分な調査ができるよう協力していきたい。また、区民向けや子ども向けの見学会の要望がある。今後、開催について相談のうえ、調整したい。(港区)  
⇒皆様と連携して進めていきたい。(事務局)

### 3 議事録

---

#### 3.1 開会

- (事務局) 第7回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開催する。
- ・ 配布資料の確認
  - ・ 次第の説明

#### 3.2 第6回委員会(4/14)の議事録確認

- (谷川委員長) 事前配布いただき、意味の通りにくいところは修正を依頼した。何か修正・訂正等の加筆はあるか。
- (港区) 出席者欄に氏名の記載があるが、欠席したため、訂正をお願いする。
- (谷川委員長) 欠席オブザーバーに追記をお願いする。その他、前回と同様、指摘がある場合は会議終了までにいただき、ない場合は確定とする。

#### 3.3 保存方針について

※JRより説明：資料2-1(4街区(4-1、4-2街区)の築堤保存検討について)  
資料2-2(補助線街路332号線周辺断面検討)  
資料2-3(4-2街区建物変更による現地保存可能性検討)

※URより補足説明

- (谷川委員長) 質問・意見はあるか。前回、380mの現地保存、信号機跡の現地保存に関する検討が行われていたが、今回、80mと40mの現地保存案を提示いただいた。コンベンションを高輪ゲートウェイ駅方面にスライドさせることが可能かについて、道路下のインフラ設備とどう抵触するかを説明いただいた。また、4-2街区に関する詳細な説明もお願いした。新たに追加された部分は、資料2-1③コンベンションを縮小した場合の検討である。メインホール自体を900m<sup>2</sup>程度に縮小すると、収容人数が減少してしまい、東京のコンベンション(国際会議場)の規模として、本来目的としていたことが果たせないという説明であった。80mと40mの現地保存案について、コンベンションを地下に下げた場合、80m案の場合は59ヵ月遅延・432億円増、40m案の場合は53ヵ月遅延・420億円増が生じるということであった。
- (古関委員) 地下へスライドした場合の工期・工費の試算について、前回依頼した検討に対して、短期間で対応いただき感謝する。技術的に不可能ではないが、膨大な時間・費用がかかり、納得できる内容だと思う。前回

口頭で教えていただいた通り、法律的に建設できない計画であるということには変わらないという理解でよいか。

(JR) その通りである。

(老川委員) 日本における国際会議の開催が落ち込んでいるということだったが、この場所に 2,000 人規模の会議室ができれば、国際会議の開催回数が増えるという根拠はあるのか。日本が劣っているのは、東京の便利なところに大きな会議室がないからという理解かと思うが、広い会議室ができれば、必ず日本の国際会議の開催回数が上位にくるのか。会議室の問題だけではなく、日本の経済全体が落ち込んでいる。リニア新幹線も進んではいるが、様々な議論があり、今後どうなるか分からない。ある種の不確定な要素を前提として議論がつくられていると思うが、その根拠をもう少し説明いただきたい。

(JR) 資料 2-1⑥ 「国際会議による参加人数別の開催数」を示しており、2,000 人以上の国際会議の回数が増えてきており、国際的なニーズとして、大きな会議のニーズが高い。一方、アジア諸国における会議の推移を見ると、他の都市は何倍かになっているにも関わらず、日本はほぼ横ばいとなっている。国際的に大きな規模の会議のニーズがあるが、それに対応できていないことが問題である。日本の場合、大きな会議場が空港から遠いという弱点がある。羽田空港から直結することが、国際競争の中で大きな武器になる。「国際空港からのアクセス比較」にある通り、羽田空港から 14 分という立地は、チャンギ空港、上海虹橋空港と比較しても、優位性がある。ここに 2,000 人規模のコンベンションができれば、非常に大きな競争力になる。アフターコロナに向けた会議誘致が活発になってきており、リアル+オンラインの組み合わせで、より多くの方々に参加いただける運営が求められており、リアルで 2,000 人収容できる施設が必要となっている。

(JR) 2,000 人規模のコンベンションを用意すれば国際競争力があがるかということ、それほど簡単な話でないことは理解している。東京都より支援いただきながら、品川エリアにおいて、八芳園、品川プリンス等を含め、誘致活動を既に始めているところである。「リニアがどうなるか分からない」という指摘はあるが、様々なところと連携し、現在の東京を元気にしていくという意味ではこれらを最低条件とし、いかに活かし、繋げていくかという努力を進めているところである。それらとハードとが相まって、実現に向けて一生懸命取り組んでいこうとしているところである。

(小野田委員) 資料 2-1⑧ 信号機について調査したところ、品川駅に対する遠方信号機の役割を果たしていたことが分かった。遠方信号機の基準は、イギリスでは 900 ヤード (約 800m) であり、品川駅に対する位置が非常に重要である。移築になると思うが、なるべくオリジナルに近いところで、オリジナルの方向にあわせた場所に保存できるとよい。「前

後約 30m」とあるが、トータル 60m を想定しているのか。

(JR)

前後を含めて 30m である。

(小野田委員)

スケッチの規模はあっているか。

(JR)

あっている。

(谷川委員長)

「前後」は削除した方がよい。

(港区)

今回のまちづくりは、文化創造にも触れられており、博物館、ギャラリー、コンサートホール等の計画もある。観光や文化について、まちづくりのコンセプトの中でどのように捉えているのか。VR などの話もあるが、現物があるのにバーチャルで終わらせようとしているところが問題につながり、議論を生んでいるのではないか。どのようなまちづくりをしていくか、文化に対してどのような考えがあるのかを示していかなければ、1.3km 出土している中で、100m 程度しか保存できないことの説明が苦しくなる。

(JR)

キーワードは交流である。国内、海外、羽田空港の国際化の進展、リニア新幹線の乗り入れがあり、また、JR 東日本としての路線としても非常に便利なところである。これらの交流を活かして、文化、観光、ものづくりを含めたビジネス創造などを実証・インキュベートさせていく。100 年先を目標とした新たなチャレンジの中で、まち全体を見ている。150 年前の時代の変わり目に、先人たちが高輪築堤を築いた思いを理解し、まちづくりに活かしていきたい。都市計画の見直しにも反映させていく。プロジェクトに上位計画としてもインプットし、さらに今あるものにマッチングさせていく取り組みをしていきたい。

(JR)

見学会の際、同様の質問を受けた。100 年先の心豊かな暮らしづくりの実験の場と考えている。象徴的なものとして、高輪ゲートウェイ駅があるが、様々なロボットを試し、実装させ、実現させていこうとしている。同様のことをまちの中で、特に 2 街区の文化創造施設において、新しい技術や文化を生み出していこうとしている。その文化の中に、今回発見された 150 年前の築堤を取り入れながら、100 年先を見据え、歴史を重ね合わせて、実験の場としていきたい。2 街区で生み出す新たな文化・技術を、まちの中で実験・実装し、世界に向けて発信していく場が、コンベンション等である。1～4 街区を連動させながら、100 年先の暮らしをつくっていくという、これまでの日本にはなかった将来を見据えたまちづくりをしていきたいと考えている。

(谷川委員長)

基本的には、建物の建築計画・開発計画を移動させることにおいて支障があるという説明をいただいた。次の質問として、開発計画自体の大幅な見直しが議論に上がってくる。本委員会の中で、どのような見解を持っているかがいたい。開発計画の大幅な見直し自体について、どう考えているのか。

(JR)

資料 2-1①や先ほどの説明にもあったが、文化財の価値は経済的なも

のからのみで語られるものではなく、様々な観点から理解すべきである。民間会社として投資をする以上、回収は考えているが、我々のまちづくりについても経済的な価値のみを目的としているのではなく、日本あるいは東京を元気にする、国際競争力を上げていく、あるいは環境に関してCO<sub>2</sub>削減等、他のまちづくりにはないことに積極的に取り組んでいる。1つ1つの技術では採算性に乗らなくとも、実証的なことを取り入れる中で、今後の日本の技術を生み出していくという意味で、様々なことに取り組んでいる。開発も、様々な可能性を持っている。今回、様々な方々の支援の中で、3街区は、現地保存に向けて努力し、4街区は、移築にはなるが現地に近いところでなるべくその価値を維持し、逆に移築することによって分かる知見を吸収し、活かしていくこととなった。これらとあわせることで、両立を考えていきたい。

(谷川委員長) 開発計画の大幅な見直しというレベルの議論ではないということか。  
(JR) 文化財が大事であるのと同様に、我々の開発ではそのような点も含めて、両立を図る中で、是非よい形をつくっていきたい。

(谷川委員長) 小野田委員より話があった移築に関して、中央広場に信号機跡を含む30mの移築を考えているという点について、質問・意見はあるか。  
(UR) 客観的に公平な立場で申し上げると、当方は文化財的な観点は素人であるが、JR東日本の移築保存案は、まちづくりの観点からは、最もインパクトのある場所、非常に注目が集まりやすい場所に、最もインパクトのある形で残されることになるのではないかと感じた。立体の図面がないためイメージしにくいですが、高輪ゲートウェイ駅を降りると、2階の歩行者広場につながっている。2階から広い階段を下りていくと、すぐのところに築堤が現れる。築堤に興味がある方はもちろん、関心がない方にとってもインパクトがある。これをきっかけとして、3街区の方向に行くと、第7橋梁橋台部が保存されており、人が興味を持って流れていく。高輪築堤を軸に、歩行者の流れを作るという意味で、まちづくりとして非常にインパクトがあるのではないかと感じた。

(谷川委員長) 文化財的価値に基づいた形で移築するのがよい。それについては、考慮されているように見受けられた。仮に移築となった場合には、我々の意見を踏まえながら、検討いただきたい。4街区の保存方針については、時間的な制約や全体のスケジュールがあるとうかがっている。この段階で説明するか、最後に説明するか。

(JR) どちらでもよい。

(谷川委員長) 今、説明をお願いします。

※JRより説明：資料3-4（懇談会の位置付け及び検討経過について）

資料6（高輪築堤日割りスケジュール）

- (谷川委員長) 質問・意見はあるか。1点、教えていただきたい。以前から2024年度の「まちびらき」といっているが、「まちびらき」とはどのような状況になったときのことをいうのか。
- (JR) 1から4街区まで、大きな建物が4棟ある。例えば、3街区にはエネルギーセンターがあり、全体のエネルギーを送るだとか、デッキや3街区の駐車場ネットワークなども一体のものとなっており、それらが使用開始をするということである。特にデッキ部分などのインフラ部分を使用開始するということである。店舗やオフィスはそれぞれ入居のタイミングがあるが、まちの機能として使い始めるというイメージである。それを目指していきたいと考えている。3街区は、手続きに2年程度かかるものを1年に縮める方向で関係者と調整している。それでも3街区は間に合わない可能性があるが、なるべく遅れないように頑張り、一体としてまちびらきをしたい。特に、機能として使用開始していければ、高輪ゲートウェイ駅からいろいろなところへ動けるようになる。広場ができれば、想定したくはないが、地震が来た際の避難場所にもなる。
- (谷川委員長) 3街区は大きな計画の変更があるが、なんとか2024年に間に合う方向で動いているということか。
- (JR) 資料3-4の最後のページが私どものスケジュールである。1・2・4街区は次の議題になるが、築堤調査も丁寧かつ慎重にやりながらも、効率的に行う。1・2・4街区のまちびらきを前提としつつも、3街区では手続きで約1年かかることになる。通常で考えると、3街区だけは間に合わない可能性がある。矢印の破線で示している。しかし、これでは影響が大きいため、自助努力と関係行政のみなさまのご協力のもと、どうやって足並みを揃えていくかという方向で今後検討したい。
- (谷川委員長) いまのスケジュール表では「建物計画変更行政手続き」が2021年度いっぱいになっているが、これは11月という認識か。
- (JR) 都市計画決定がされないと、建築確認ができないということである。
- (谷川委員長) 質問・意見はあるか。
- (老川委員) 2024年にまちびらきするという計画は分かる。ただ、一般の人々からの意見や、新聞報道などを読むと、「大事な遺構であるから、慎重に検討するべきではないか」という議論が非常に多くみられる。2024年に間に合わせるためには、「今、結論を出さなくてはいけない」という議論であるが、「慎重に議論を」という方々に納得してもらうために、どのような説明を考えているのか。「この計画は2024年にまちびらきをしないと意味がない」といったようなことをきちんと説明しないと、新聞報道にあるような意見に賛同する人達を納得させられないの

ではないか。その点が心配である。今の話は、この検討会議の中では通用するかもしれないが、一般の方々、学会関係者、マスコミ関係者に、説得力のある説明をするためには2024年がどうしても大切であると説明すべきでないか。そのあたりはどうなのか、心配である。

(JR)

今後、しっかりと対応していきたい。私どもとしては、本日の資料も含め、委員の先生方に丁寧に議論を重ねていただいていると思っている。その結果として、本日のとりまとめを真摯に受け、対応していく。すべて委員の先生方に責任転嫁するというわけではなく、今までのご指導を踏まえ、議論内容を公開するということにもなっているので、しっかり説明していきたい。その過程の中で委員の先生方に相談させていただくこともあるかもしれないがしっかり対応していきたい。2024年のまちづくりは、私どものスケジュールでもあるが、関連する事業がスケジュールを持って動いており、それらとの整合もある。今回、バラバラの事業ではなく、いくつかの事業を連携させて進めているということもある。そういったところへの影響も考慮し、スケジュールを守ることの公共性・必要性も説明していきたい。老川委員ご指摘の懸念を全て払拭できたわけではないので委員の先生方のご指導を反映していきたいと思う。

(谷川委員長)

事業自体の重要性・公共性からスケジュールが成立しているということか。そのあたりが少し曖昧である。26日がデッドラインである、というスケジュールはよく分かる。それを支えている論理、「事業自体の公共性」や「まちづくり性」などなのか、そのような論理が必要かなと思う。先ほどの発言はそういった趣旨か。

(JR)

早く実現する公共性がある。高輪ゲートウェイ駅は既に開業しており、行き来はできるが、いまは周辺ともうまく連携できていない。地域の方々にも、早く高輪ゲートウェイ駅やまちのさらなる利便性を享受していただく必要がある。国際競争力がどうして2024年かということはあるが、私どもとしては、アフターコロナに向け、しっかりこのまちを活かしていきたい。単に「アフターコロナになりました」ということではなく、「日本を元気にしていく」ということに取り組みたいと思っている。そういった観点から、本プロジェクトは、スケジュール通り進めることが、我々や地域の方々、僭越であるが、東京や日本にとっても、お役に立つと思っており、お役に立たなくてはならないと考えている。

(谷川委員長)

他に何かあるか。いま、提案いただいた4街区に関してとりまとめたい。一点目。我々、検討委員会の委員は、4街区に関しては、基本的に、信号機跡を含む可能な限り長い区間の現地保存を要望してきた。本日提示されたJR案の記録保存に関しては、文化財価値が損なわれることになり、検討委員会の委員としては承認できないと思っている。現地保存を要望していたにも関わらず、果たされないということにな

るため承認できない。ただし、先ほど説明いただいたスケジュールの問題については、時間的制約を考慮するとやむなしという判断をせざるを得ないと思っている。率直に申し上げて、高輪築堤をはじめとして、開発の途中で遺跡が見つかり、それを保存するという問題が起きたとき、基本的には事業者の判断に委ねざるを得ないことは事実である。事業者の責任が大きいと同時に、一方で事業者に多大な負担をかけているのもまた事実である。JRが発言した、文化財的な価値は経済的な価値には換算できないという点は、私も同じ意見である。経済的な影響を受けながらも、かけがえのない文化財を保存することはある意味で重要な判断である。そういった判断に至るかが問題である。その意味では3街区の第7橋台、及び築堤 80m の現地保存を決断していただいたことについては、私も大変評価し、そして歓迎したい。一方で、4街区に関しては記録保存という結論になったことは誠に残念である。しかしながら、開発計画の時間的な制約から、やむなしとせざるを得ない、ということを経済的に検討委員会の結論としたい。非常に難しい協議であった。今後、検討委員会の議事録、懇談会の記録も公開されていく。様々な方がいろいろな意見を寄せられると思うが、現状では、このような結論に達せざるを得ない。この点で、皆様からご意見・質問はあるか。

(老川委員) 谷川委員長の発言の通りである。

(谷川委員長) 次の問題として、信号機を含む 30m の中央広場への移築については、文化財的な価値を念頭に置いてほしい。特に山側の開業期の石垣の状態は現地保存にしても、恐らく見ることはできないと思う。見られる状態にはならないと思う。そこは、山側の開業期の石垣をきちんと復元してほしい。もうひとつは、築堤の構造、断面についても、現地保存をしている限りなかなか見ることは難しいため、その部分ができるようにぜひ工夫をして欲しい。そういったことを考えると、以前から申し上げている通り、今後、移築の際のデータをとることを含めて、記録保存はやはり詳細かつ慎重に行ってほしい。もう一点。今後、記録保存の調査をする中で、特に、開業期の山側の状態はほとんど分からない。調査範囲に入らないこともあるため、その部分が発掘調査で明らかになる場所は限られるが、しかし、そこを含めて重要な遺構が出てきた場合は、現地保存もしくは移築保存を検討する、ということをお願いしたい。そして、5・6街区に関しては、現状、開発計画が詰まっておらず白紙と聞いている。築堤の現地保存を考慮した開発計画を策定していただきたい。開発計画が詰まった状態で遺構が出てきて、建物を3街区の場合はスライドできたが、4街区は難しく、大幅な見直しが必要となると、どうしても残せない状況になってしまう。5・6街区はこれから開発計画を策定すると伺っているため、

その点も要望したい。4 街区の保存問題に関してはこういったかたちで取りまとめたいと思う。ご意見・ご質問等あるか。

(東京都建設局) 先程、5・6 街区について、谷川委員長からお話いただいた。我々、東京都も、5・6 街区に接する、環状4号線、京急連立について資料5で補足する。環状4号線、京急連立ともに、東京都の長期戦略である「未来の東京戦略」において、品川駅周辺と一体的な市街地の開発、環状4号線、京急連立の整備・推進を位置づけている。そのため、一定のスケジュール感を持って進めていきたい。このようなことから、エリアの骨格となる環状4号線、京急連立の今後の進め方についても引き続きご指導いただければと思っている。

(谷川委員長) 前回も言及したが、5・6 街区の全体の開発の問題と、環状4号線、京急連立の問題は、切り離して考えられるかが大きな問題である。また、開発計画と遺構との関係を詰めて検討していくことが必要である。理解いただきたい。

(UR) 東京都建設局の発言にもあったように、環状4号線や京急連立の事業が既に進んでいるので、周辺の基盤整備の状況は、検討の際に考慮いただきたい。

(谷川委員長) 我々は何も聞いていないため、驚いた。基盤整備事業がどうなっているのかについて、少なくとも私は聞いていない。道路計画が先行し、建物が規制されるという議論になる可能性がある。現段階から検討することが必要である。遺跡をできる限り現地保存するという考え方のもと、検討を行うことが必要だと個人的には思う。今後の本委員会の議論になっていくのではないか。

(UR) 私の説明が誤解を与えてしまったようで申し訳ない。築堤をできる限り現地保存するという考え方に相反する意味で申し上げたのではないので、本委員会の方針に沿って引き続き検討をお願いしたい。

(JR) 丁寧に議論いただき、感謝する。谷川委員長から、現地保存ができない4街区は残念という言葉、事業者の責任は重いという話があった。現地保存、移築保存、あるいは記録保存調査もあるが、これまで委員の先生方に指導いただいたことを踏まえ、後世の方々にこのような議論をしてよかったと言っていただけのような、調査、保存、我々としてはまちづくりも含めて、しっかりと進めていくことを決意表明したい。4街区の信号機跡の30m移築保存について、パースを作成している。どこまで調べられるかは分からないが、山側の明治5年の石垣、断面、信号機跡ではなく信号機の復元も含めて勉強したい。このあたり小野田委員に指導いただきたい。UR からもあった通り、非常によい場所である。築堤に興味を持っていただけるようなことも含めて、取り組んでいく。5・6 街区については、品川駅寄りとなっているため、環状4号線、北口広場等、さらに様々な機能が求められることになる。この場であまりしっかり説明ができていないということであれば、こ

れから説明したい。様々に必要な機能が既に位置づけられており、具体的な配置は、今後の検討となる部分である。谷川委員長より、現地保存を考慮してという話があった。要望としては承るが、我々としては、これまでと同様、高輪築堤の広い意味での保存とまちづくりの両立に向けて取り組んでいくこととする。

(谷川委員長) 5・6街区に関しては、1～4街区と同様の状況にならないよう、努力していかなくてはならない。是非お願いしたい。同じことの繰り返しは、お互いにエネルギーが必要となる。それはできるだけ避け、1つ1つ積み上げていく議論をしあうことが必要である。要望であるが、是非お願いしたい。

(JR) 5・6街区は、現在、試掘調査を進めているところであり、状況の確認を含め、検出調査をどのタイミングで実施できるか検討していきたい。実際、現地では様々な工事が行われているエリアであるため、調整は必要となるが、その辺りの議論・確認をしながら進めていきたい。

※JRより説明：資料2-4（高輪築堤の調査・保存について（1～4街区））

(谷川委員長) 質問・意見はあるか。2街区の公園部分、第7橋台および築堤の80m部分が現地保存という形になった。史跡指定がされるにあたり、史跡指定の整備に向けてのスケジュールを立てていただきたい。史跡指定になった場合、所有・管理者の整理が問題として挙がってくるため、是非検討いただきたい。これらについては、保存問題と関わっているため、本委員会の課題として捉えることがふさわしいのではないかと。記録保存に関しては、後ほどの議題で言及する。さしあたり、現地保存、移築保存、記録保存の方針がまとまったため、本資料についても良いと思うが、いかがか。

(全員) 特になし。

※JRより説明：資料2-5（高輪築堤の調査・保存等に関する当社方針について）

(谷川委員長) 前回、「前提」という強い表現があったが、修正いただいた。これで良いと思う。

### 3.4 懇談会の位置付け及び検討経過について

※事務局より説明：資料3（懇談会の位置付け及び検討経過について）

(谷川委員長) 懇談会の内容は、もう少し詳細な整理がされるのか。メモを突き合わせて、できるだけ復元してほしいとお願いしたが、提示資料が懇談会

- の内容の整理ということか。
- (事務局) 主な内容を整理している。
- (谷川委員長) 議論の内容自体の詳細の復元は難しいか。
- (事務局) 確認を取りながらになると思う。事前に突き合わせた結果が今回の資料である。
- (谷川委員長) 私も詳細なメモを取っているわけではない。東京都、港区、JRのメモから作成しており、骨子としてはこれで良いということか。
- (事務局) その通りである。
- (谷川委員長) 了解した。これが公開されるのか。
- (事務局) 添付資料という形になる。
- (谷川委員長) 後ろについている資料とともに、公開されるということか。
- (事務局) その通りである。
- (谷川委員長) 理解した。

### 3.5 高輪築堤の本調査（記録保存調査）の実施について（調査区の考え方）

※JRより説明：資料4（高輪築堤の本調査（記録保存調査）の実施について）

- (谷川委員長) 質問・意見はあるか。
- (港区) 3街区について、北側からA、B、C、Dと振っていくため、必ずしも保存部がAになるわけではないと伝えた。第7橋梁部は、「3C」になる。
- (JR) 現地保存する箇所をAとした。
- (港区) 2街区の保存部は、結果として最も北側になるため、A、B、C、Dと振った。保存部をAにするという考え方ではなく、北側から振っていく。
- (谷川委員長) 基本的には北側からA、B、C、Dを振っていくため、「3C」が保存部となる。後になって、混乱を招くことにつながってしまう。
- (JR) 承知した。
- (谷川委員長) 名称について、「調査区」と「調査工区」が混在している。通常、考古学では「工区」という言葉は使わない。「調査区」に統一し、「2A区」、「2B区」などとしていただきたい。工事範囲ではなく、調査の範囲である。調査の範囲の場合、「調査区」という言葉を使うが、「調査工区」はあまり使わない。発掘調査において、独自に割ったという意味で、「工」は削除をお願いする。枝番は振らないこととし、単純に北側からA、B、Cを振っていく形とするようお願いする。また、できるだけ早い段階から着手しなければいけないナンバリングの仕方、遺構番号の付け方、遺物の取り上げ方（4m四方のメッシュをかける必要がある）や遺物が出土した際の注記方法など、細々とした問題があるが、

基本的なことが全く決まっていない。はやく決定しないと、調査に入ることができない。基本的には港区の作成するマニュアルに基づきながらも、街区ごとに違いがあるため、街区ごとに検討していくことが必要である。築堤の内部がよく分からず、最初から決め打ちで実施してしまうと失敗する可能性があるため、相談したい。ある程度発掘を進めながら、その知見を次の調査区に活かしていく方法をとる必要がある。発掘調査の調査範囲は、資料の通りでフィックスと考えてよいか。追加が出てくることは、基本的にはないか。

(JR)

ない。

(谷川委員長)

杭打ちを行い、現地を確認していただくことが重要なプロセスである。調査区が決定となると、これに基づき、調査を行うこととなる。仮に、今後ある程度調査をしなければいけない箇所が出てきた場合には、協定変更という形にせざるを得ない。発掘調査の範囲が明確になっているということであれば、これに基づいて杭打ちを行い、現地を確認いただければよい。調査の街区固有の問題については、現場で調整が必要である。最も心配していることは、4-1 街区の後、4-2 街区の発掘調査となるが、今回は 4-2 街区の発掘調査は行わないということである。4-1 街区と 4-2 街区の間にも築堤の遺構があるため、空白部分ができないようにする必要がある。例えば、山留めを打った範囲の記録が真っ白にならないように気をつけたいといけな。1つの遺構について、帯状に空白部分ができることはあり得ない。特に、4-1 街区の調査をしていく中では、4-2 街区との繋がりを念頭においた形での調査が必要である。本来は、4-2 街区まで含めて調査した方がよいと思うが、難しいことは理解している。各街区の固有の問題については、調整していきたい。

(JR)

街区の中で、連続性を保った形で調整していく。現地での確認についても、十分承知している。なるべくはやいタイミングで、スケジュールを調整させていただき、谷川委員長の立ち合いをお願いしたい。必要な報告をしつつ、協定の締結や現地レベルでの調整進めながらになるが、1～4街区の調査を進めることについて理解いただいたということによいか。

(谷川委員長)

今後、調査の方法に関して検討する必要があるが、本委員会では調査の方針を示しているため、本日説明いただいた調査方針に準拠した形で調査を進めていただけてよい。調査区が確定し、発掘の順番が飛び飛びにならないように進めていくということになりそうである。詳細については、私が立ち会う。調査の内容に関しては、報告が必要である。様々な問題がまだあるため、本委員会を月1回程度で定例化できないか。今年に入ってすぐに提案したことがあるため、検討いただきたい。調査の進捗状況や調査の方法等に関して意見いただく機会や、

(JR) 様々な問題を議論する場とするイメージである。  
具体を相談させていただく。

### 3.6 現地調査の進捗報告及び環状4号線・京急線連立部の進め方

※港区より説明：資料5（現地調査の進捗報告）

(谷川委員長) 質問・意見はあるか。

(東京都教育庁) この間の調査については、JRに協力いただきながら、港区と逐次情報を共有してきた。環状4号線橋脚部については、海側の石垣、バラスト、盛土が確認されており、バラスト、盛土が事業にかかる部分として保護措置の対象となる。京急連続立体交差の部分については、開業時の盛土が残存していることが判明した。それを切るような形で、明治～大正頃と推測される、築堤の盛土、間知石積みの側溝が検出された。先ほどの報告の中で、創業期の盛土については、おそらく調査の掘削を伴わないだろうということであったため、築堤の盛土と間知石積みについては、時期・範囲等を確定する必要があると考えている。区の報告において、保護措置を講じるべき意向は明確にさせていただいた。今後の進め方については、谷川委員長からも発言があったが、京急連続立体交差事業、環状4号線事業を5・6街区全体の整備計画から切り離す、合理的な説明が必要である。そのうえで、該当する部分の具体的な保護措置の方法を可及的速やかに委員会に諮れるよう、準備を進めていく。

(東京都建設局) 試掘調査の結果を整理いただき、感謝する。今後速やかに資料を整え、相談したい。環状4号線事業も京急連続立体交差事業も、スケジュールがあるため、早急に対応したい。引き続き、協力をお願いする。

### 3.7 本委員会での議論内容とりまとめ及び公開

※JRより説明：資料6-1（「高輪築堤調査・保存等検討委員会」における検討経過と総括（案））

資料6-2（「高輪築堤調査・保存等検討委員会」の議事内容公開までの流れ（案））

(谷川委員長) 質問・意見はあるか。事前に皆様に配布したうえで、委員会としての見解という形で、文書を用意する。本日の到達点については触れておく必要がある。まとめのところで言及した内容が中心になると思う。議事録と重複する可能性もあるが、議事録は1週間後ということであるため、委員会の見解として提示していきたい。配布方法は、要相談

- である。可能であれば、手伝っていただけるとありがたい。
- (古関委員) 第1回委員会において、谷川先生に委員長になっていただいた。以降は、「委員長」表記になる。
- (谷川委員長) プレスリリースのタイミングについては、相談という形になる。
- (JR) 本日とりまとめという前提で、プレスリリースの準備を進めている。委員会終了後、皆様にメールで送付するため、確認・意見をいただきたい。全体のスケジュールとの関係で、4/21(水)にプレスリリースを行うことを検討しているため、それまでの取り扱いを含めて、理解・協力をいただきたい。どういうわけか、前回委員会の終了後、数社から状況確認の質問があった。我々は一切、言及しておらず、今回についても、プレスリリースまでは本日の内容を言及できないと認識している。リリースの内容は調整させていただく。慎重かつ迅速にお願いしたい。
- (谷川委員長) 事前に記事が出てしまうと、大変なことになるため、注意したい。

### 3.8 その他

- (谷川委員長) 先ほども申し上げた通り、本委員会がこれで終了ということではない。月1回程度のペースで定例化し、現場の進捗状況や残っている課題等について、情報交換、意見、協議を是非お願いしたい。

### 3.9 閉会

- (事務局) 本日いただいた主な意見について、整理する。委員会の定例化については、どのような形で進めるか、引き続き調整する。調査については、主となる現場とのやりとりをどのように進めていくか、相談しながら組み立てていきたい。また、現場サイドのより詳細な議論になっていくと思うが、共通マニュアルについて、引き続き、港区と連携して進めていきたい。史跡指定については、どのように進めていくかを含めて、調整していきたい。全体を通して、意見・質問はあるか。
- (谷川委員長) 文化庁、東京都、港区から意見をお願いする。
- (文化庁(史跡)) 委員の先生方においては、短期間にも関わらず、何度も開催いただき、大変丁寧かつ慎重に審議いただき、感謝する。JRにおいても、この間、様々に検討いただき、特に、第3街区の第7橋台部分および第2街区に関して、保存を図る決断をいただいたことに、文化庁として感謝する。保存を図る箇所に関しては、今後の整備や史跡指定に向け、国としても委員の先生方の思い、JRの思いを受け止め、対応していきたい。今後、記録保存調査等、様々な課題点がある。有識者の先生方の意見

を尊重して、進めていただきたい。

(文化庁(埋蔵文化財)) 今後、記録保存調査の具体的な実施方法の検討に入っていく。全体方針を決定するところまでは非常に熱心に議論いただけるが、発掘調査の議論になると、なぜか作業の一環のような形で流されてしまうことが往々にしてある。2024年度のまちびらきが決定している事業であり、発掘調査の期間も当然決定してくる。日本の鉄道技術を知ることができる、非常に重要な遺跡である。遺構の解体の過程で、余すことなく情報を抽出できるような調査をお願いしたい。そのためには、十分な調査期間が必要である。工事と同時作業を進める必要があるなど、様々な調整が必要になっていく。しっかりとした発掘調査ができるような工程を組み、重要な遺跡に対する責任が取れるところまで実施していただきたい。我々埋蔵文化財部門も、発掘に関して、できる限り現地に足を運び、相談に乗りたい。

(東京都教育庁) 今後、発掘調査でなくなってしまう部分もあるが、保存される部分について、国民の皆様にも公開できるよう、調査成果を加えながら、史跡指定、整備、維持を含め、体制づくりを検討することも必要である。谷川委員長からあったように、今後の発掘調査に引き続き、整備方針などをはやめに固めていくことに助力していきたい。

(港区) 谷川委員長に感謝する。また、JRにおいては、3街区80m現地保存に関して、大きな判断をいただき、感謝する。今後の記録保存調査については、港区としてもJRと連携し、必要十分な調査ができるよう協力していきたい。また、区民より、高輪築堤を是非見学したいという意見をいただいております。今後、開催について相談のうえ、調整したい。教育委員会という立場から、子どもに是非見せてほしいという意見も寄せられている。子ども向け見学会についても、開催を相談したい。

(事務局) 調査についてや区民向けの見学会についてを含め、皆様と連携して進めていきたい。第7回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を閉会する。

以上